

大会の全体スケジュール

	8 月 26 日 (金)	8 月 27 日 (土)		8 月 28 日 (日)
午前	10:00-12:00 評議員会	9:30-12:00 国際セッション 【11-12 頁】	9:30-10:35 自由論題報告 I (討論者なし) 【3-4 頁】	9:30-10:35 自由論題報告 II (討論者なし) 【7-8 頁】
			10:45-11:25 自由論題報告 I (討論者あり) 【2 頁, 5-6 頁】	10:45-11:25 自由論題報告 II (討論者あり) 【2 頁, 9-10 頁】
			11:40-13:00 特別委員会報告 (最終報告) 【13 頁】	11:40-13:20 スタディ・グループ報告 (最終報告) 特別委員会報告 (中間報告) 【13 頁】
午後 I	13:00-14:30 会員総会	13:10-15:30 統一論題：報告 【14-15 頁】		13:30-15:15 統一論題：討論 【14-15 頁】
午後 II	15:00-16:30 《特別対談》 斎藤静樹氏 徳賀芳弘氏 【16 頁】	15:40-17:40 《特別企画》パネル・ディスカッション 「日本の会計研究・教育の深化と多様性」 【17 頁】		15:30-17:00 ASBJ セッション 「国内外の ASBJ の活動状況」 【18 頁】

【〇-〇頁】とあるのは、このプログラム案内（印刷用）に詳細情報が記載されている頁です。ご参照ください。

《討論者付報告》

8月27日（土）、8月28日（日）の両日とも 10:45–11:25

【企画趣旨】

ご承知のように、学会であるからには学会の責任編集による機関誌（査読誌）が必要であることから、『会計プロGRESS』が誕生し、学会の査読制度もすでに20年を超える歴史をもつに至りました。査読制度では、中立的な評価プロセスを維持するため、投稿者の側は査読者が誰であるかを知らず、査読者の側も投稿者が誰であるかを知らないという二重匿名システムが採用されています。つまり、査読体制は、相互評価（ピア・レビュー）による研鑽と匿名制度の結合システムです。

匿名制度は、研究内容や質（水準）とは無関係な雑音を遮断するために優れた制度ですが、特有の問題点や限界もあります。問題点というのは、査読水準が不安定だという点です。誰がどのような査読をしているのかがわからないため、査読者が誰かによる「当たり外れ」が生じます。その結果、査読者のミスにより、優れた論文が見落とされてしまう危険性と、論文に含まれた欠陥が見逃されてしまう危険性がともにあります。

それにたいして、討論者付報告は、同じくピア・レビューですが、公開の場で論文の評価をしますから、その経験を重ねていくうちに、どのような研究論文が優れているのかについて一

定のコンセンサスが学界（学会）で形成されると期待されます。匿名制の査読制度を有効に機能させるためには、公開制の討論者付報告のシステムも絶対に欠かせない存在です。

さらに、匿名制の査読制度では、投稿者のみが査読コメントから多大な恩恵を受けるだけであり、残念ながら、その経験は学界・学会の共有財産とはなりません。それにたいして、公開の場での討論者のコメントは参加者が共有することになります。その後、優れたコメント（論文）は、学習教材にもなります。その波及効果はとても大きいと思います。

まだまだ、恥ずかしさなどの心理的抵抗感があって、投稿や討論者付報告に応募することへのハードルは高いかもしれません。自分にたいするメリットが他人にたいするメリットにもなるという意味で、ピア・レビューは学会の存在意義そのものです。ほんの少しずつでも、ともに変革していきましょう。

静かな聴衆でいても、まったくかまいません。とにかくにも、まずは聴いてみてください。もちろん、報告者も討論者もどちらも緊張しているはずですが、議論が核心に至れば、楽しそうに話が弾んでいるように見えるはずです。是非ともご参加のうえ、多様性に富んだ報告内容をお楽しみください。

8月27日(土)：自由論題報告Ⅰ（討論者なし）

第1報告 報告：9:30-9:50 質疑応答：9:50-10:00
 第2報告 報告：10:05-10:25 質疑応答：10:25-10:35

第1会場 司会：福井 義高（青山学院大学） 報告者：竹原 均（早稲田大学） 「日本企業のフィランソロピーとインプライド資本コスト：投資家認識の視点からの分析」 報告者：野間 幹晴（一橋大学） 敷田 亮子（一橋大学大学院生） 「社債スプレッドと退職給付に係る負債・資産」	第2会場 司会：池田 幸典（愛知大学） 報告者：増村 紀子（兵庫県立大学） 「金融負債と株式市場—オプション価値評価理論から」 報告者：柳田 宗彦（モーニングスター株式会社） 「わが国における暗号資産の評価にかかる実態と今後への提案」
第3会場 司会：國部 克彦（神戸大学） 報告者：長田 芙悠子（中央学院大学） 「環境会計の原理論的考察 —「環境問題」の抜本的解決へ向けて—」 報告者：金森 絵里（立命館大学） 「廃炉会計制度の成立過程」	第4会場 <u>この会場は開始時刻が10:05となっています。ご注意ください。</u> 司会：榎本 正博（神戸大学） 報告者：廣瀬 喜貴（大阪公立大学） 「開示情報のリーダビリティと個人投資家の意思決定の関連：オンライン・サーベイ実験による検証」

（次頁に続く）

(前頁からの続き)

第5会場 司会：藤野 雅史（日本大学） 報告者：山矢 和輝（帝京大学） 罇 涼稀（筑波大学大学院生） 岡田 幸彦（筑波大学） 「AIS とマネジメントコントロールとの関係性に関する 実証的研究の潮流と将来の発展方向」 報告者：岡田 幸彦（筑波大学） 罇 涼稀（筑波大学大学院生） 河又 裕士（筑波大学） 今倉 暁（筑波大学） 櫻井 鉄也（筑波大学） 「財務諸表データを学習した長期借入金増減の予測実験」	第6会場 司会：尾上 選哉（日本大学） 報告者：林 兵磨（京都西山短期大学） 「学校法人における財務情報の理解可能性の向上について」 報告者：生方 裕一（早稲田大学） 「わが国地方自治体会計情報の COFOG に基づく活用と課題 —SNA・GFS との連携を踏まえて—」
第7会場 司会：古田 美保（甲南大学） 報告者：河瀬 豊（神戸学院大学） 「伏在税の推計—住宅借入金等特別控除が住宅価格に与える影響」 報告者：稲葉 知恵子（拓殖大学） 「日本企業の税務がバナンスの開示」	第8会場（院生セッション） 司会：山田 康裕（立教大学） 報告者：応 豪傑（駒澤大学大学院生） 「IASs/IFRSs に従った無形資産会計の意味 —米国 IFRS 適用企業に焦点を当てて—」 報告者：淵野 勇樹（明治大学大学院生） 「ドイツの自己持分会計制度上の重要な転換点 —2016 年ミュンスター財政裁判所の決定によせて—」

8月27日(土):自由論題報告Ⅰ(討論者あり)

報告: 10:45-11:05 討論者のコメント: 11:05-11:15 報告者からの応答および質疑: 11:15-11:25

第1会場 司会・討論者: 秋葉 賢一(早稲田大学) 報告者: 鈴木 大介(麗澤大学) 「利益計算とリスクの概念—資産負債アプローチと収益費用アプローチにかえて—」	第2会場 司会・討論者: 原 俊雄(横浜国立大学) 報告者: 儀本 光広(鎮西学院大学) 「ボストン式元帳とアメリカ式簿記法」
第3会場 司会・討論者: 矢澤 憲一(青山学院大学) 報告者: 中島 真澄(文京学院大学) “An Impact of the COVID-19 Pandemic on MD&A Disclosure of Fraudulent Firms? Evidence from Japan”	第4会場(英語セッション) 司会・討論者: 藤原 英賢(追手門学院大学) 報告者: Frendy(名古屋商科大学) 武田 史子(慶應義塾大学) “Moderating Effects of Restructuring-Driven, Involuntary, and Voluntary Auditor Switching on Buying Power and Audit Fees”
第5会場 司会・討論者: 梶原 武久(神戸大学) 報告者: 石田 惣平(立教大学) 岩澤 佳太(東京理科大学) 「予算参加が業績予想に及ぼす影響」 “Budgetary Participation and Management Earnings Forecasts”	第6会場 司会・討論者: 吉見 宏(北海道大学) 報告者: 原口 健太郎(西南学院大学) 丹波 靖博(西南学院大学) 池田 大輔(九州大学) 阿部 修司(九州大学) 「わが国の地方債価格形成要因と公会計増分情報—『説明可能なAI(XAI)』を活用した機械学習アプローチ—」

(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

第 7 会場 司会・討論者：椎葉 淳（大阪大学） 報告者：小谷 学（熊本学園大学） “Precise Disclosure may Reduce Corporate Investment Efficiency”	第 8 会場（院生セッション） 司会・討論者：角ヶ谷 典幸（一橋大学） 報告者：高井 駿（青山学院大学） 「現在価値測定において適用される割引率」
--	--

8月28日(日)：自由論題報告Ⅱ（討論者なし）

第1報告 報告：9:30-9:50 質疑応答：9:50-10:00
 第2報告 報告：10:05-10:25 質疑応答：10:25-10:35

第1会場 司会：坂上 学（法政大学） 報告者：板橋 雄大（東京経済大学） 「Hyperledger Fabric を用いたブロックチェーン会計への一考察」 報告者：竹森 一正（中部大学） 「GAAP 翻訳研究論序説」	第2会場 司会：加賀谷 哲之（一橋大学） 報告者：井上 謙仁（近畿大学） 「IFRS 適用が相対的業績評価に与える影響」 報告者：奥原 貴士（四日市大学） 「開発資産と将来業績の関係に対する企業の資金力の影響 －IFRS 適用日本企業を対象とした実証研究－」
第3会場 司会：川村 義則（早稲田大学） 報告者：木村 太一（多摩大学） 「その他の包括利益累計額勘定の位置づけとリサイクリング」 報告者：前川 千春（慶応義塾大学） 「財務会計における資本維持概念の再検討」	第4会場 司会：中川 優（同志社大学） 報告者：岡野 憲治（松山大学） 「ライフサイクル・コストニング制度の研究 － General Accounting Office と Governmental Accounting Office の 報告書を中心として－」 報告者：岸田 賢次（名古屋学院大学） 「会計情報システム及びデータ分析教育と DX」

（次頁へ続く）

(前頁からの続き)

第5会場 司会：安井 一浩（神戸学院大学） 報告者：檜山 純（北海道科学大学） 「法定財務諸表監査における期待と対応」 司会：藤井 誠（日本大学） 報告者：高橋 隆幸（横浜市立大学） 野間 幹晴（一橋大学） 矢幅 規泰（KPMG 税理士法人） 「配当所得課税が企業の配当政策に与える影響 —個人大口株主の配当総合課税を用いた分析—」	第6会場 司会：遠藤 尚秀（大阪公立大学） 報告者：山本 清（鎌倉女子大学） 「政府の財務報告の透明性と市民の理解可能性：調査実験的研究」 報告者：石川 恵子（日本大学） 黒木 淳（横浜市立大学） 佐藤 亨（日本生産性本部） 田中 優希（法政大学） 山本 清（鎌倉女子大学） 「IT化が地方自治体の業務の効率化に与える効果についての検証」
第7会場 司会：山本 達司（同志社大学） 報告者：若林 利明（上智大学） 「業務プロセス効率化投資に対する財務報告のリアルエフェクト」 報告者：佐藤 清和（金沢大学） 「会計情報空間と企業運動方程式 —力学的アプローチ—」	第8会場（院生セッション） 司会：奥村 雅史（早稲田大学） 報告者：夏吉 裕貴（横浜市立大学大学院生） 「公益法人の理事会が遊休財産の利用に与える影響 に関する実証分析」 報告者：深谷 優介（桜美林大学） 「銀行業における経営者の業績予想の特性と 手数料収益による実体的裁量行動」
第9会場（院生セッション） 司会：奥田 真也（名古屋市立大学） 報告者：安間 陽加（神戸大学大学院生） 「土地重課税制度が譲渡益計上に与える影響に関する実証分析」 報告者：加藤 大智（神戸大学大学院生） 「コスト・ビヘイビアの非対称性が将来の業績に与える影響」	

8月28日(日):自由論題報告Ⅱ(討論者あり)

報告: 10:45-11:05 討論者のコメント: 11:05-11:15 報告者からの応答および質疑: 11:15-11:25

第1会場 司会・討論者: 妹尾 剛好 (中央大学) 報告者: 濱村 純平 (桃山学院大学) 山田 麻以 (明海大学) 「MBA教育を受けたメンバーはどのタイミングで チームでの仕事に取り組めばよいのか」 “Lead or facilitate? When should an MBA-educated member decide on an action in team production?”	第2会場 司会・討論者: 太田 浩司 (関西大学) 報告者: 吉岡 正道 (行動科学学際研究所) 末原 聡 (杏林大学) 「コンビニエンスストアにおける業績予測の取組み方」
第3会場 (英語セッション) 司会・討論者: 大鹿 智基 (早稲田大学) 報告者: 顧 俊堅 (筑波大学) “Gender Policy, Masculine Culture, and Corporate Disclosure”	第4会場 司会・討論者: 安酸 建二 (近畿大学) 報告者: 小笠原 亨 (熊本学園大学) 新改 敬英 (熊本学園大学) 原口 健太郎 (西南学院大学) 「需要の上振れリスクが企業のコスト構造に与える影響 —企業ライフサイクルによる不確実性の分類—」

(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

第 5 会場 司会・討論者：藤井 誠（日本大学） 報告者：野坂 和夫（名古屋 商科大学） 佐野 哲哉（名古屋商科大学） 松田 和久（名古屋商科大学） 小泉 友香（共立女子大学） 「経営戦略としての税負担削減行動と CSR 活動の関連性 —税負担削減行動による CSR 活動の誘発—」	第 6 会場 司会・討論者：西谷 順平（立命館大学） 報告者：森光 高大（西南学院大学） 木村 太一（慶応義塾大学） 「主観的業績評価におけるアピールの役割：分析的研究による考察」
第 7 会場（院生英語セッション） 司会・討論者：中島 真澄（文京学院大学） 報告者：徐 小鈞（神戸大学大学院生） “Detecting Financial Statement Fraud in Chinese Listed Companies”	第 8 会場（院生セッション） 司会・討論者：衣川 修平（長野県立大学） 報告者：鈴木 雅康（学習院大学大学院生） 「繰延税金資産の測定方法の再検討」

8月27日（土）：国際セッション

開催時間帯 9:30–12:00

国際セッションの企画趣旨については、日本会計研究学会の国際交流委員会から情報を提供していただきました。ここにお伝えいたします。

【企画趣旨】

ご承知の通り、国際的な学術交流、本学会の研究成果の国際的発信のために、「国際セッション」が設定されています。例年、三学会間のMOUに基づき、韓国会計学会(KAA)、台湾会計学会(TAA)からの派遣報告者による報告、そしてJAAからの報告、合計5-6本の研究報告をセットしています。例年、KAA・TAAでの選考・招聘手続きがある関係上、プログラムの確定が他のセッションと比べると遅れますが、ご容赦のほどお願いします。なお、言語は英語です。若手・中堅・シニア、幅広いご参加をお待ちしています。

なお、プログラムの詳細は、次頁に掲載しています。

27 th . August (Saturday)	
Time	Agenda
	Moderator: Makoto Nakano, Hitotsubashi University
9:30-9:45	Opening Ceremony • Opening remarks • Speech of the President from three associations (including introduction of delegates.) President Akira Usui (JAA) President Seung-Weon Yoo (KAA) President Min-Jeng Shiue (TAA)
9:45-12:00	Paper presentations (Presentation 18 minutes, Discussion 6 minutes, Q&A 6 minutes.)
9:45-10:15	International Session 1 Chair: Atsuko Takinishi, Sophia University (KAA1) Is the Market efficient to integrate CSR Information? Il Joo Kang, Singapore University of Social Sciences Discussant: Hyonok Kim, Tokyo Keizai University
10:15-10:45	(TAA) The Distance of Business and Politics: The Effect of Corporate Proximity to Political Power on Corporate Investment Decisions Yu-Hsuan Chung, National Chung Cheng University Discussant: Ryosuke Fujitani, Tokyo Keizai University
11:45-11:00	Coffee Break
11:00-11:30	International Session 2 Chair: Tomomi Takada, Kobe University (JAA) Family Governance and Labor Cost Behavior: Evidence from Private Colleges and Universities. Makoto Kuroki, Yokohama City University Discussant: Sun-Moon Jung, Dongguk University
11:30-12:00	(KAA2) Socially Oriented Misreporting in Mission-Driven Firms Sun-Moon Jung, Dongguk University Discussant: Yu-Hsuan Chung, National Chung Cheng University

《特別委員会報告, スタディ・グループ報告》

8月27日(土): 特別委員会報告(最終報告)

11:40-12:20 特別委員会報告(1)

委員長: 奥村 雅史(早稲田大学)

「情報関連技術の進展と財務会計に関する研究」

司会: 中條 祐介(横浜市立大学)

12:20-13:00 特別委員会報告(2)

委員長: 松本 祥尚(関西大学)

「開示情報に対する保証の枠組みに関する研究」

司会: 山崎 秀彦(専修大学)

8月28日(日): スタディ・グループ報告(最終報告) および特別委員会報告(中間報告)

11:40-12:20 スタディ・グループ報告(1)

委員長: 中尾 悠利子(関西大学)

「AI技術の活用によるESG情報の評価に関する研究」

司会: 坂上 学(法政大学)

12:20-13:00 スタディ・グループ報告(2)

委員長: 浅見 裕子(学習院大学)

「のれんの会計処理に係る包括的考察」

司会: 戸田 龍介(神奈川大学)

13:00-13:20 特別委員会報告

委員長: 大日方 隆(東京大学)

「会計規制および会計基準の事前評価と事後評価に関する研究」

※例年とは異なる《特別企画》をプログラムに組み入れたため、特別委員会報告とスタディ・グループ報告は、お昼時に開催させていただきま
す。オンライン開催の良さを活かして、会員の皆様には、土日に楽しい(美味しい)お昼のひとつをお過ごしいただけたら、幸いです。

《統一論題》 共通テーマ = 会計学の多様性

報告：8月27日（土）13:10-15:30

討論：8月28日（日）13:30-15:15

【第1会場】 「会計情報の役割の再確認」

座長： 乙政 正太（関西大学）
報告： 木村 史彦（東北大学）
中村 亮介（筑波大学）
中條 祐介（横浜市立大学）

【第2会場】 「拡大・多様化する開示情報・報告書と会計学研究」

座長： 音川 和久（神戸大学）
報告： 北川 教央（神戸大学）
矢澤 憲一（青山学院大学）
阪 智香（関西学院大学）

【第3会場】 「現象の理論化と管理会計」

座長： 高橋 賢（横浜国立大学）
報告： 諸藤 裕美（立教大学）
足立 洋（県立広島大学）
坂口 順也（名古屋大学）

【第4会場】 「会計研究空間の充実と開放」

座長： 工藤 栄一郎（西南学院大学）
報告： 田口 聡志（同志社大学）
荒田 映子（慶應義塾大学）
吉川 晃史（関西学院大学）

【企画趣旨】

準備委員会では、まず、座長を指名させていただきました。座長の先生方には、「会計学の多様性」を念頭において、テーマの選択と人選をお願いしました。テーマと報告の中身については座長の先生方、報告者の先生方にお任せしていますが、人選については、準備委員会のほうから、「多様性を実現する人選」という条件をつけさせていただきました。

報告者の先生方の顔ぶれをご覧くださいてわかるように、フレッシュな面々でじつに多様性に富んでいます。統一論題への登壇が初体験の先生方も多いであろうことを想定して、例年よ

り企画は早めにスタートしました。各会場の座長を中心として報告者の先生方は、オンライン会議を駆使して大会前に相当な準備を進めていただいたと漏れ聞いております。4つの会場とも、わくわくするようなテーマが並んでいます。準備委員会の側も是非とも聴きたいと思いつつ、事務局作業があるためにそれができないことを、とても悔しく感じています。

同時並行配信するのがもったいないと言いたくなるほど、面白そうなテーマが並んでいます。まさに統一テーマにふさわしいセッションになったと自負しています。会員の皆様も苦悩の決断をしたうえ、参加される会場をお選びください。

報告テーマ一覧

【第1会場】 「会計情報の役割の再確認」 座長解題：「会計情報の役割の再確認」 木村 史彦 「会計情報の質に対する影響要因の多様性と変化」 中村 亮介 「債務契約における会計情報の現代的役割 —財務制限条項に注目して—」 中條 祐介 「Non-GAAP 指標開示の論理と 財務会計の機能の拡張」	【第2会場】 「拡大・多様化する開示情報・報告書と会計研究」 座長解題：「拡大・多様化する開示情報・報告書と会計研究」 北川 教央 「会計アノマリーの経年変化」 矢澤 憲一 「財務報告研究におけるテキスト分析」 阪 智香 「サステナビリティ開示」
【第3会場】 「現象の理論化と管理会計」 座長解題：「現象の理論化に向けた研究アプローチの多様性」 諸藤 裕美 「現象の理論化と管理会計： 創造性と連携のための原価企画」 足立 洋 「現象の理論化と管理会計： 高不確実性下の業績管理会計」 坂口 順也 「現象の理論化と管理会計： 組織間マネジメント・コントロール」	【第4会場】 「会計研究空間の充実と開放」 座長解題：「会計研究空間の充実と開放」 田口 聡志 「実験会計学の宇宙：未来×信頼×原初形態」 荒田 映子 「会計基準の構造と変容」 吉川 晃史 「臨床会計学の展開」

東京大学大学院経済学研究科金融教育センター（CARF）共催

《特別対談》

大会 1 日目 8 月 26 日（金） 15:00–16:30

対談者： 斎藤静樹（東京大学名誉教授）、徳賀芳弘（京都先端科学大学教授）

【企画趣旨】

今年度、日本会計研究学会第 81 回大会を東京大学の企画・主催で開催させていただくにあたり、討論者付報告をはじめとして、いくつかの特別イベントを企画いたしました。

ほんらいなら対面で開催し、都心本郷にある広大なキャンパスを散策していただければよいのですが、あいにくのコロナ禍にくわえて、なにぶん会計学スタッフが少ないため、会員の皆様をお招きすることができず、大変申し訳なく、かつ、心苦しく思っております。

なんとか、「東京大学らしさ」を表現し、会員の皆様に少しでもそれを味わっていただきたいとの思いから、どのような企画がふさわしいか思案しました。手前味噌であることを重々承知したうえで、本学の名誉教授である斎藤静樹先生にご登壇いただくのが最適だということになりました。

斎藤静樹先生の研究報告や基調講演は、会員の皆様もすでになんどもお聞きのことと思い、今回は、前学会長である徳賀芳弘先生に対談相手をお願いしました。皆様ご承知のように、お二方は、学会長、企業会計審議会、財務会計基準委員会（ASBJ）などで共通した経歴をおもちです。その一方、お二人の平素の接点やアカデミックな世界での共通点はとなると、世代も違うし・・・是非とも、両先生の対談をお聴きしたいと考えた次第です。

対談のタイトル、テーマ、トピックスについては、準備委員会も当日までわかりません。

どのような話題について、なにを話されるのか、会員の皆様も楽しみにしてご参加ください。

《特別企画》 パネル・ディスカッション
「日本の会計研究・教育の深化と多様性」

大会 2 日目 8 月 27 日（土）15:40–17:40

【企画趣旨】

このプログラムは、会計に関連する他学会との連携を強め、深めたいという薄井彰会長の発案により、日本会計研究学会理事会が企画主催したものです。

準備委員会としましては、できるだけ多くの会員の皆様にご参加いただけるよう、恒例のプログラムと重ならないように、かつ、2 日目というセンターに配置させていただきました。

本プログラムについては、東京大学の準備委員会は後方支援に徹し、その企画内容については理事会でお決めいただいているので、中身を把握しておらず、ここでその内容をご紹介します。別途、学会のホームページに内容の告知、ご案内が公開されるかもしれません。ついては、本プログラム案内の外部での情報提供になることを、あらかじめお含み置きください。

《ASBJ セッション》 「国内外の ASBJ の活動状況」

川西安喜（企業会計基準委員会委員長）、紙谷孝雄（企業会計基準委員会副委員長）

大会 3 日目 8 月 28 日（日）15:30-17:00

昨年 11 月 16 日、本学会にも多大な貢献をされた企業会計基準委員会委員長の小賀坂 敦（こがさか あつし）さんが逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

今年度の大会では、志半ばで天逝された小賀坂さんの後を引き継いだ川西委員長をお招きして、お話を伺います。同席される副委員長の紙谷さんは、東京大学の同窓生であり、対面での開催であれば「晴れ舞台」であったことでしょうか、オンライン開催でも、ご活躍の様子を披瀝していただければ、準備委員会としても望外の喜びです。

近年、国際的にも、会計基準の開発作成主体の側から、学界にたいして知的貢献を求める声が高まっています。他方の学界の側でも、少しずつですが、経験的証拠を重視した会計基準の作成をもとめる声が上がってきました。

会計原則の形成期においては、その基礎構築作業において「学」が重要な貢献をしましたが、その後、情報交換はしていても、「学」と「実（実践）」とが連携していたとはいいいない状況が続いてい

ます。近年、実証研究も盛んになりましたが、会計制度にたいする経験的示唆が得られているのかというと、正直、ほとんどの研究論文に疑問符が付く状態です。

学知の裏づけのない会計制度は心許ないだけでなく、経験的示唆をもたらさない「学」の側も社会的存在意義が問われます。個人レベルでは「好きなようにやってよい」はずですが、全体を見たとき、だれも両者の関係を考えず、「学」と「実（実践）」とが疎遠であると、結局は全員が不幸になるのかもしれない。

もちろん、今日の議論が明日に役に立つと期待できるほど、生やさしい世界ではありません。それだからこそ、積み重ねが大切であり、地道な交流と知の蓄積が必要です。いずれ花開くことを信じて、小賀坂さんに「学」からの献花ができるように、ひとりでも多くの会員の方々が参加されることを願っています。